

1 基本情報

施設名称	大阪市立数津浦学園
施設所管課・担当	福祉局障がい者施策部障がい福祉課施設グループ（担当：中元・長井）
条例上の設置目的	児童福祉法（昭和22年法律第164号）第42条第1号に規定される福祉型障がい児入所施設として、障がいのある児童を入所させて、日常生活の指導及び独立自活に必要な知識技能の付与することを目的とする
業務の概要	（1）福祉型障がい児入所施設の運営・管理 （2）利用児、者への個別支援計画に沿った日常生活支援 （3）短期入所事業、日中一時支援事業 （4）年齢超過者の地域移行 等
成果指標	利用者満足度／職員の資質向上に資する研修の実施
数値目標	80％以上／年6回
指定管理者名	社会福祉法人いわき学園
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日（5年間）
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	利用者満足度	職員の資質向上に資する研修の実施
数値目標	80％以上	年6回
年度実績	100％	年6回以上
達成率	125.0％	○

利用状況

○ 障がい児入所施設

令和8年3月1日現在年齢別入所状況

	0～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	計
男	0	2	3	4	5	4	18
女	0	1	1	1	3	3	9
計	0	3	4	5	8	7	27

（障がいの程度別）

	A（重度）	B1（中度）	B2（軽度）	計
男	9	3	6	18
女	1	3	5	9
計	10	6	11	27

（令和7年度入退所）

- ・ 入所 男6名 女0名 計6名
- ・ 退所 男2名 女1名 計3名
- 短期入所事業（延べ利用件数）
 - ・ 障がい児 778人
 - ・ 障がい者 672人
- 日中一時支援事業（延べ利用件数）
 - ・ 障がい児 13人
 - ・ 障がい者 341人

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異 (実績－計画)	主な要因
児童福祉事業収入	実績	190,160,479	190,875,908	23,555,479	措置費単価の改定等による増
	計画	166,605,000	177,550,000		
障がい福祉サービス等事業収入	実績	54,709,199	46,186,085	△ 3,322,801	補助金事業収入の減
	計画	58,032,000	47,378,000		
寄付その他	実績	7,469,526	4,856,221	△ 4,474	
	計画	7,474,000	3,954,000		
合計	実績	252,339,204	241,918,214	20,228,204	
	計画	232,111,000	228,882,000		

支出		当年度	前年度	差異 (実績－計画)	主な要因
人件費	実績	156,875,789	151,986,457	△ 1,556,211	
	計画	158,432,000	152,568,000		
事業費	実績	28,597,750	27,746,427	△ 554,250	
	計画	29,152,000	28,340,000		
事務費	実績	41,063,995	39,249,286	3,575,995	修繕費の増
	計画	37,488,000	38,378,000		
その他	実績	2,420,170	2,438,189	20,170	
	計画	2,400,000	2,480,000		
合計	実績	228,957,704	221,420,359	1,485,704	
	計画	227,472,000	221,766,000		

4 管理運営状況の評価（1次評価）

（1）成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
利用者満足度	125.0%	S	「利用者は数津浦学園での生活を楽しんでいる」との回答が100%であり、高い利用者満足度を得ていることから左記の評価とする
職員の資質向上に資する研修の実施	○	B	外部参加型研修（主にZoomを活用した研修）、職員のスキルアップを目的としたeラーニング研修、全職員に向けたアウトリーチ型研修を実施している

（2）管理経費の縮減

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
ネットショッピングやリサイクルショップを活用し、物品購入費の節減に努めた。また、不良となった照明器具については、順次LED照明へ交換を行い、省エネルギー化を進めている。LEDへの移行状況は、まだ3分の1程度蛍光灯が残っており来年度以降順次交換するよう計画を立てている。その他、消耗品の削減、節電、電気設備や機械設備については不具合の早期発見・早期修繕により経費削減につなげた。	B	—

（３）管理運営の履行状況		
評価項目	評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営	B	—
事業計画の実施状況	A	利用者満足度等、概ね事業計画どおり達成できている
施設の有効利用	B	関係機関や地域団体との交流・連携を継続的に行っている
社会的責任・市の施策との整合性	B	—

5 利用者ニーズ・満足度等

（１）調査方法 利用者保護者に対してアンケート調査を実施
（２）利用者保護者19人（回答者 8 人） 回答率42.1%
（３）質問項目 ア 基本的な事項（入所形態、利用期間） イ 支援内容（学園での生活、支援内容、利用者サポート、個人情報保護等） ウ その他
（４）結果 ・ 利用者は学園での生活を楽しんでいると答えた方が100％ ・ 職員の対応や雰囲気が良いと答えた方が100％ ・ 利用者の個々の状況に応じた専門的な支援や指導が行われていると答えた方が100% ・ 災害発生時の対応について、十分な説明を受けたと答えた方が38%

6 外部専門家意見

計画的な施設修繕の実施、各種研修の実施など様々な工夫により、丁寧で細やかな取組が展開されていることは評価できる。 今後の施設運営においては、昨今の社会情勢を踏まえ、LGBTQなどの性的マイノリティーやハラスメントに対する理解をより深めていくことが課題である。また、調査対象者の母数の少なさから、正しい利用者満足度を図ることが難しい状態にある。実施方法等について検討し、より正しく実情を把握することで適切な施設運営に繋げることを期待したい。一方で、収支関係については、前年度比10,421千円増加に転じており、経営努力は高く評価できる。
--

7 最終評価（現在、仮評価を入力しております。外部評価会議にて、最終評価を確定させます。）

評価項目	評価	所見
成果指標の達成	A	アンケート項目で非常に高い利用者満足度を得ており、研修も適切に実施されている
市費の縮減	B	一定の経費削減により、サービス提供の質を維持しながら、適正な事業運営を行っている
管理運営の履行状況	B+	利用者の権利擁護への取組として勉強会の実施、e-ラーニングによる個別スキルアップ研修を導入するなどサービス向上に向けた積極的な取組を行っている。また、児童の意思を尊重した支援を心がけており、結果として、利用者から全体的に高い評価を得ている
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営		
事業計画の実施状況		
施設の有効利用		
社会的責任・市の施策との整合性	B	概ね事業計画どおりに運営できており、総合的に評価できる
総合評価		